

# ハーモニー

令和5年  
10月発行  
No.18

## 男女共同参画標語優秀作品の紹介

令和5年8月に、男女共同参画標語を募集しました。  
65点の応募の中から、優秀作品をご紹介します。  
皆さんたくさんのご応募ありがとうございました。



新時代

男女平等

当たり前

【ペンネーム くわまるおさん】



“無関心”

それこそ社会の最大の敵

【木部 陽夏之さん】

認め合う

共同参画

家族から

【ペンネーム あつきーさん】



生き生きと

あなたらしく

さあ 行こう！

【ペンネーム टीまさん】

多様性

広げ認め合う

参画社会

【ペンネーム マッチさん】



## 男女共同参画ってなあに？

男女が平等な社会のパートナーとして、あらゆる分野で活動に参画する機会が確保され十分に能力を発揮し、共に責任を担う社会。男女が安心して暮らせる社会の環境作りです。「男は仕事」「女は家庭」という役割分担意識は時代と共に変わってきましたが、まだまだ根強く残っています。その例が女性が仕事を持って家事、育児等の分担は大きく女性にかかっています。

市民意識調査の結果から、男女共同参画社会の言葉や制度について知っていると回答した人の割合は47.2%で半数です。まだまだ社会に浸透していませんが、1999年6月23日に公布・施行の「男女共同参画社会基本法」を基本法とする日本における社会政策です。

参加は単に集まりに加わることを言い、参画は事業や計画に加わることをいいます。誰もが安心して暮らせる社会になって欲しいです。

【伊藤 芳子】

check



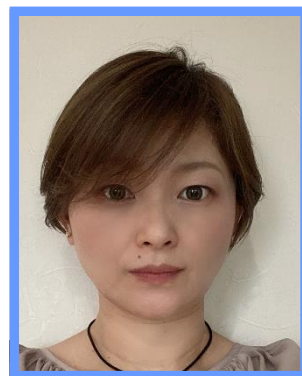
# 起業を経験し、活躍している女性を紹介します！

## 高橋 奈津美 さん

〈プロフィール〉

- 熊本県玉名市出身
- 伊勢崎市在住

なつみ総研株式会社 代表取締役



13年前に建設会社を営んでいた夫が、現場の落下事故で胸から下の全てと手の指が麻痺し、幼い子供3人を抱えた私が、夫の介護をしながらでもできるのではないかと思いこの仕事を始めて10年目になります。最初はただの主婦である私にできるのか不安でいっぱいでしたが、正しい情報と知識の必要性は、一般家庭でも会社経営でも同じではないかと思い、一念発起し現在に至ります。



〈職場の皆さんと共に仕事に励む高橋さん〉

「経営コンサルタント」って何をやる仕事？とよく聞かれますが、当社の仕事は分野にとらわれず、利用できる様々な制度を計画的に利用し、お客様である会社の目標を達成するためのお手伝いをすることです。支援内容は、創業、資金繰り、事業承継、各種事業計画の策定、M&A、補助金・助成金支援など多岐にわたりますが、各々のタイミングで使える各種制度をコーディネートすることで、会社にとって最小限の負担で最大限の効果を生み出し、会社の安定経営をサポートしています。

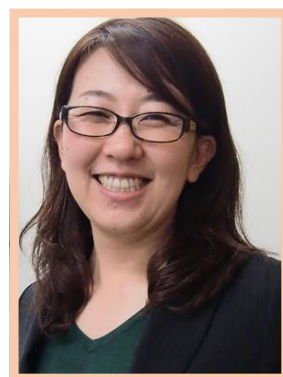
経営者は圧倒的に男性が多く、女性ということで偏見を持たれることもたまにあります。女性であるからこそその経験や視点を活かし、他にないコンサルタントを目指しています。

## 高野 こずえ さん

〈プロフィール〉

- 伊勢崎市出身
- 伊勢崎市在住

たかの社会保険労務士事務所 所長  
株式会社たかのワークライフサポート 取締役  
株式会社グンビル 代表取締役  
株式会社カンザイ 取締役



今年26歳・24歳・20歳になる三人兄弟の母親。  
私が社会保険労務士を目指したのは、離婚することを決めた平成22年2月でした。  
このとき息子達は12歳・10歳・6歳。2カ月後には長男は中学校入学、三男は小学校入学を控えていました。



〈社労士の合格証書〉

今のままでは自立した生活が送れないことが分かった時、父の会社の女性社会保険労務士の先生の顔が浮かび「社会保険労務士になって子供を育てよう。」と決めました。仕事・育児・子育てしながらの受験勉強は想像通り苦しいものでしたが、家族、職場の同僚や息子達のママ友達に助けられ、平成26年試験に合格し翌年1月に「たかの社会保険労務士事務所」を開業することができました。

現在は、父親から事業を引き継ぎビルメンテナンス会社の経営者にもなりました。父親は引き継ぐ前に私が言った「社会保険労務事務所は経営者と労働者を守ることが仕事。グンビルは会社の建物を守ることが仕事。私が社長になれば建物もその中で働く人も守ることができる。」という言葉に、父親自身にはない考え方だと感じたそうです。

昨年1月には株式会社たかのワークライフサポートを立ち上げ、助成金・補助金のサポート業務、中小企業で働いている従業員の育児や介護を理由とした離職を出さないためのサポート業務を展開しています。

今後はコロナ禍で大きく変わった働き方や事業の在り方の中、性別や年齢では判断されずに暮らしていける環境づくりを更に進めていきたいと考えています。

〈仕事に励む高野さん〉





# 「ジェンダー平等社会実現」について考える

報告・感想

8月27日(日) 「第61回群馬県母親大会」が昌賢学園まえばしホールにて開催されました。7分科会の1つ「ジェンダー平等社会実現のために」に参加しました。

〈その1〉は、群馬県生活こども課男女共同参画室室長の出前講座でした。県内のデータを示しながら、丁寧で分かりやすいお話でした。世界では日本の特徴として、教育・健康では高いが、ジェンダー平等は進んでいないと見られている。管理職に男女差があるのが原因。

群馬県の市町村の審議会委員・自治会長の参画は47都道府県中47位。女性の参加が遅れている。女性の有業率は多いが、非正規雇用が多い。男性は正規雇用が多く定年まで働くが、女性は家事、育児を担っていることが多い。固定的性別役割が原因ではないか。県民の意識として、平等17.4%、男性優遇65.4%、平等を感じている人は少ない。賃金は男性の7割、原因として女性の管理職が少ない、勤続年数が少ないことが原因と考えられる。性別による無意識の思い込み、アンコンシャス・バイアスを解消するため、そのことに気づくことが必要。女だから、男だからと決めつけない、押し付けない、自分らしく生活することが大切。男女共同参画として、生理用品無償配布、女性の就業支援等、様々な取り組みをしていると話されました。

〈その2〉は、弁護士の村越芳美さん。日本のジェンダーギャップは123位、経済は123位、政治は138位との統計を示し、すべての人が平等で自由に生きられる社会を実現するためと話されました。アンケートでは、男性の31%が課長以上を希望、女性の44.5%が役職につかなくていいと回答。なりたくない、なれない理由として家庭との両立が難しいが一番多い。しかし、配偶者の家事・育児の参加が多いほど、管理職への意向が増えてくる。女性議員も少ないが、他国はクォーター制を導入して増やしている。これまでに最高裁判所の裁判官となった人数は189人、そのうち女性は8人。夫婦別姓訴訟では、憲法違反ではないとの判断がされたが、裁判官15人中5人が反対した。5人のうち3人が女性。裁判官の中に女性がもっといたら、決定は変わっていたかもしれない。改姓することによるわずらわしさは、男性は感じたことがないので、わからないのではないか。男性は仕事・主要業務、女性は家庭・補助的業務という固定的性別役割分担意識は、生まれた時にはないが、家庭・保育園・学校など、子供のときからの積み重ねで持つようになる。大人になってからの意識改革は大変なので、家庭から性別役割分担をなくすことが大切。そして、意思決定の場に女性が参画することが重要。

分かりやすく、あっという間の2時間半でした。

【新井 康子】

## 会員募集



いせさき 女(ひと)と男(ひと) ハーモニー・ネットの会員を随時募集しています。興味がある方は下記の事務局にお問い合わせください。

問い合わせ：伊勢崎市役所市民部人権課男女共同参画係 ☎27-2730(直通)